

歴史的事象に対する関心・意欲を高める指導の工夫

—資料の比較から出された疑問や驚きを基にした単元を貫く学習課題づくりを通して—

特別研修員 社会 本間 達也(小学校教諭)

児童の実態

- ・ 資料から事実を読み取ることはできるが、そこから疑問や驚きを持つことができない。
- ・ 課題が与えられることを待っている。

教師の願い

- ・ 資料を比較する活動から、疑問や驚きを感じてほしい。
- ・ 課題を見出し歴史的事象を進んで学んでほしい。

つかむ

単元名「明治の国づくりを進めた人たち」
手立て1 資料の比較から疑問や驚きを持つ

比較資料

江戸時代の日本橋
と
明治初期の日本橋

明治時代は馬車が走り、ガス灯がきているな

誰が日本橋の町並みを変えたのだろう

なぜ、20年でこんなに感じが変わったのだろう

外国の船が日本に来て開国を迫ってきたんだ。日本は抵抗したけど、力で勝てないので、開国することになったんだね。日本がどんなものを取り入れたのか調べてみたいな。

手立て2 疑問や驚きを基にした単元を貫く学習課題づくり



疑問や驚きを付箋紙に書き操作しながら、小グループで共通点や関連することをまとめる。

追究する

今までの江戸幕府の力では外国に勝てないのではないか。だから、幕府が政治を行うのをやめたんじゃないかと考えた児童が見られた。大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允は、他にどんな政策を行ったか図書室で調べていく姿が見られた。



児童の予想 (江戸から明治への変化の要因について)

予想1
外国との関係が
変わった。

予想3
鎖国が
終わったから

予想6
政治をする人が
変わったから。

単元を貫く学習課題の設定

「どのようなこと、どのような人々の思いや願いで、世の中は変わっていったのだろうか。」

まとめる

新しい国をつくらうとした人たちは、外国に負けない強い国をつくらうとして、富国強兵の政策や憲法の制定などを行ったんだ。その後の日本はどうなったんだろう。欧米の国に認められたのかな、調べてみたいな。

単元を貫く学習課題への継続した振り返り

- 江戸時代が終わったきっかけや新しい国づくりを誰が進めたのか
 - どんな人物の活躍があり、そこにはどんな思いがあったのか
- 授業を進めていく中で、単元を貫く学習課題との関連性を毎回確認

成果

- 疑問や驚きを抱かせることができるような、時代の異なる同じ場所や人物の様子に関連する場面の資料を比較することで、課題解決に向けて関心・意欲を持って学習活動を進めることができた。
- 児童の予想を基に単元を貫く学習課題を設定したことで自主的に人物についての調べ学習を行ったり、自分なりの考えを出したりする様子が見られ、歴史的事象に対する関心・意欲を高めることができた。

課題

- 小グループで話し合う活動では、気付いたことや疑問点を明確にさせていくことが必要である。
- 単元を貫く学習課題につながる疑問へと集約していく方法が必要である。